























業種別景況予測

2024年1月～3月

						
	特に好調	好調	まあまあ	やや不振	不振	きわめて不振
部会	10～12月 (実績)	1～3月 (見通し)	概況			
寝装 リピング			「海外での戦争による情勢悪化が悪影響を与えている。(毛布製造業)」 「寝具を含めた日常品の需要は低迷。(寝具製造業)」など、先行き不透明とのコメントが寄せられた。			
織維 ファッション			「最低賃金は毎年上がっているが、加工賃は上がらないし、上げにくい。(ミシン加工業)」 「コロナがおさまりつつあるが、まだまだ低調。(染色整理業)」 「協業・連携・共創・垂直・水平の連携が必要。(衣料卸売業)」とのコメントが寄せられた。			
工業			「生産量は、自動車の生産状況により減少。一部顧客の国内回帰動向から期待できる製品の増産に注力。(工業用薬剤等製造業)」 「相変わらず人手不足が続いている。特に若手が不足。物価原料高騰が転嫁できない。(機械器具設置補修業)」 「産業機械・建機・自転車等は、低調な状態が続いている。中国からの需要の減少も原因の一つ。自動車関連向けは動きがあるものの、メーカーにより不透明感がある。(機械部品製造業)」などのコメントが寄せられた。			
建設			「資材一部に欠品あり(高圧電線)、人手不足により労務費が値上がり傾向。(建設業)」 「材料費が値上げしているにも拘わらず施工単価は据え置き状態。売上も大幅減。(塗装業)」 「高齢化・人手不足で困っている。(総合警備業)」など、人手不足・売上減少のコメントが見られた。			
運輸倉庫			2023年は、燃料費高騰のため最悪の年だった。(運送業)」 「輸入コンテナの物量が減っている。特に中国からの寝装インテリア関係が激減。円安の影響が出ている。(物流事業)」などのコメントが寄せられた。			
金融理財			「業務の困難性は増しているが、需要は根強いものがあり、業況は悪くないと判断している。(土業)」 「今年は引き続き先が見えない。(不動産賃貸業)」 「損害保険がメインの会社ですが、会社としては生命保険に力を入れてきている。(損保代理店業)」などのコメントが寄せられた。			
一般商業			「仕入れ価格の値上げが激しく、対応に困っている。(精肉小売業)」 「原材料の値上げが続いているが、販売価格に転嫁できていない。(菓子製造小売業)」 「ブランドのバックなど一部の商品を除いて、相対的にサイクルが短くなっている。人気商品と思っても長く続かない。(雑貨小売業)」など、消費に対する落ち込みのコメントが多く寄せられた。			
サービス商業			「材料費の値上げが続いているため、集客ができて利益が上がらない。(飲食業)」 「賃金を上げるも、スタッフが思うように集まらない(飲食業)」 「利用者の高齢化により将来、先細りが懸念される。(スポーツクラブ業)」 「コロナも収まり、インバウンド団体が増加。修学旅行等の学生団体も増加傾向。(ホテル業)」などのコメントが寄せられた。			

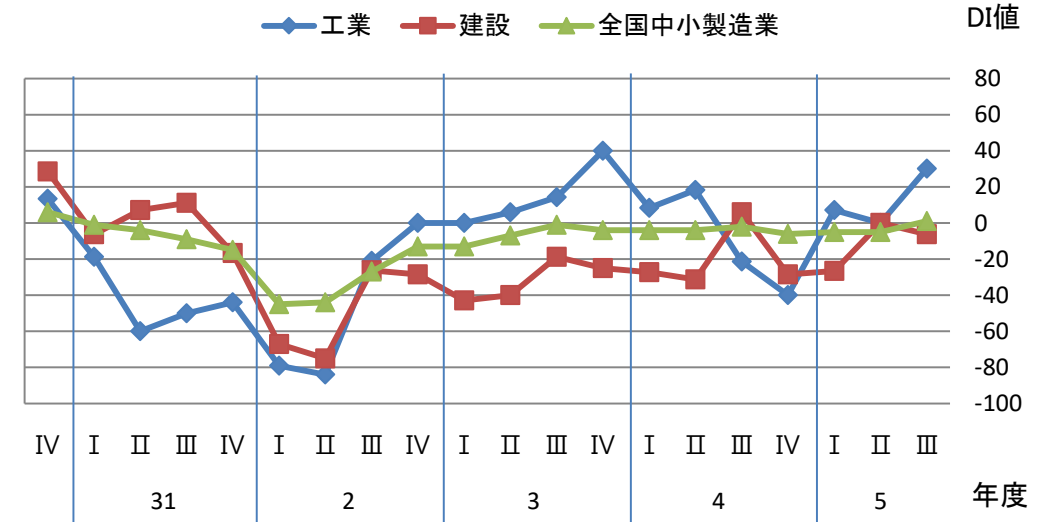
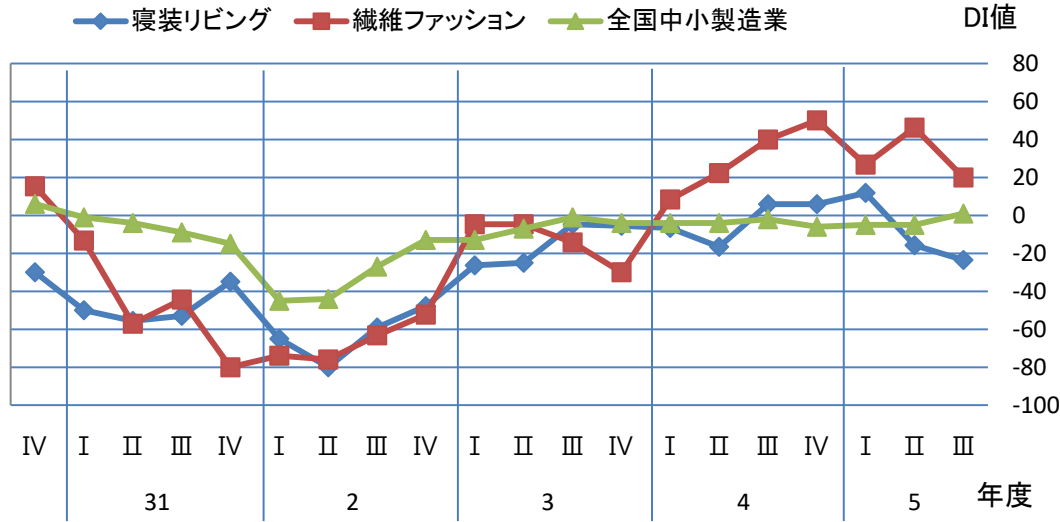
(調査概要) ●調査実施 令和6年1月 ●調査対象企業 277社 ●回答数 113社

管内企業をとりまく諸条件を考慮し、各企業が「景況」をどのように予測しているのかについて、継続的に調査し発表しています。調査は、四半期毎にとらえており、通常のシーズンの動向が理解できるようにまとめました。この「景況予測」が「結果」と比べてどうであったか、また、各々の業界対策・企業経営の一つとして、参考にしていただければ幸いです。

～調査機関～ 泉大津市田中町10番7号 泉大津商工会議所 業務課 TEL 0725-23-1111

前年同期と比較

泉大津の全産業のDI値は前年同期に比べ、回復を見せた。業種別にみると、サービス業については大幅に改善され、繊維ファッション業・工業はやや改善、運輸倉庫業は横ばい、建設業・金融理財業・一般商業はやや悪化、寝装リビング業は悪化となった。

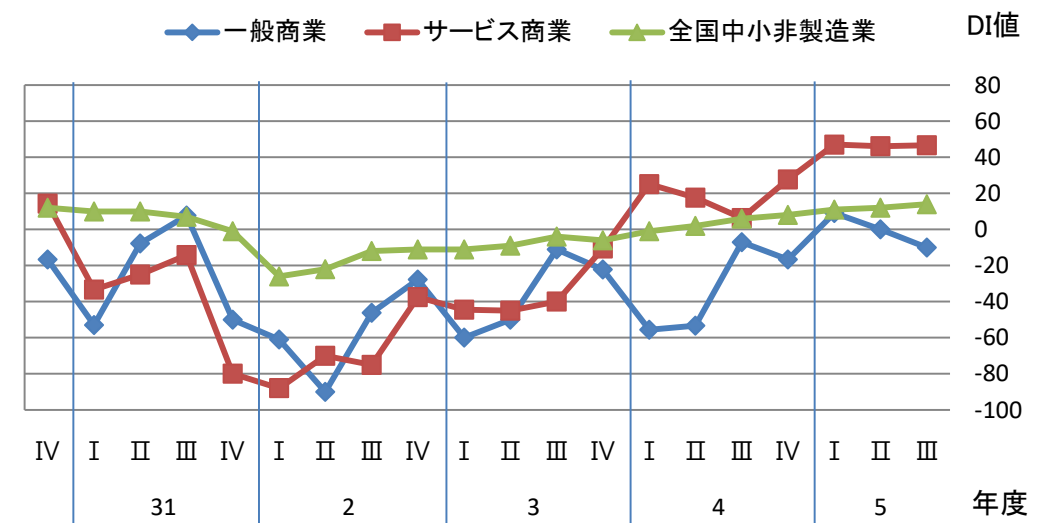
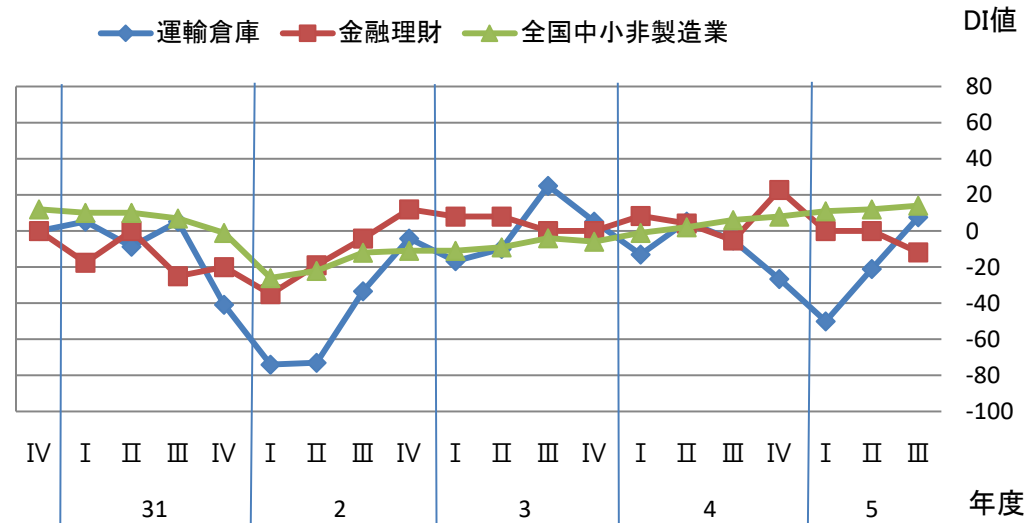


前年同期と比較

寝装リビング業は、前年同期に比べ売上高は回復を見せず減少傾向、繊維ファッション業は前年同期と比べ改善が見られたが、回復まではおよばなかった。

前年同期と比較

工業は、回復傾向が見られ前年同期と比べ大幅に改善された。建設業は、回復が見られず、前年同期と比べやや悪化となった。



前年同期と比較

運輸倉庫業は回復傾向を示し、前年同期と比べやや改善となり、金融理財業は、前期および前年同期と比べてやや悪化となった。

前年同期と比較

一般商業は、前年同期と比べやや悪化、サービス商業は大幅に改善され、上昇傾向を示し、維持している。

※DI値: 売上状況の回答 (増加-減少=DI値) ※H30.7 ゲリラ豪雨 ※H30.9 台風21号 ※R2.3 新型コロナウイルス感染症拡大
 I = 第一四半期(4~6月) II = 第二四半期(7~9月) III = 第三四半期(10~12月) IV = 第四四半期(翌年1~3月)

⑨ 全国中小製造業・非製造業は前期と比較しています。